ネパールにおける小学生の環境意識と環境行動

ADHIKARI BOHARA PUJA・伊藤　雅一

名古屋産業大学大学院環境マネジメント研究科環境マネジメント専攻

はじめに

ネパールでは，人々の環境意識の欠如に起因した環境問題が深刻化している。本研究の目的は，ネパールにおける小学生の環境意識と環境行動の関係性を検証することにある。小学生の環境意識から，ネパールの小学校における環境教育を評価し，その改善方向を明らかにすることを目指している。

1. 研究の方法

許容瑜ら（2019）は，台湾・苗栗県の小・中学校を対象にアンケート調査等を実施し，環境問題に対する関心，理解，学習意欲の関係から，児童・生徒の環境意識を検証している。本研究では，2023 年 12 月から翌年 1 月にかけて，カトマンズ市，ポカラ市，ルンビニ県の小学校 7 校の 6 年生を対象に，許容瑜ら（2019）の調査方法を用いて，環境問題に対する意識を把握した。さらに，調査対象校のうち，3 校では，環境日記の作成を依頼し，その内容分析を通じて日頃の環境行動を把握した。

2. 結果および考察

2.1　アンケート調査にみる小学生の環境意識

アンケート調査では，16 項目（地域環境問題，地球環境問題それぞれ 8 項目）の環境問題に対する意識を明らかにするため，「関心」，「理解」，「学習意欲」の有無について自己評価を求めた。調査対象校 7 校の 453 名から回答があった。これらの回答結果については，クロス集計を行い，その最も高い回答率に基づいて，小学生の環境意識を学校別，地域別に分類した。小学生の環境意識には，自ずと個人差があるが，最も高い回答率に着目することで，各学校における小学生の主たる環境意識を把握した。

表 1 は，環境問題に対する「関心」と「理解」に関する回答のクロス集計結果である。環境問題の多くは，「関心はないが理解している」，「関心もないし理解もしていない」に該当していた。ネパールでは，各教科を通じて環境教育が行われている。つまり，ナショナルカリキュラムに沿った環境教育が中心であり，環境問題に対する意識も，学校間で顕著な差はなく，「理解」が促されている一方で，「関心」を持たすことができていない点が共通していた。

2.2　環境日記にみる小学生の環境行動

次に，小学生の日頃の環境行動を把握するため，調査対象校のうち，3 校の 120 名に「環境日記」の作成を依頼した。回収した 108 名（回収率 90%）の「環境日記」の内容を日毎にカード化し，環境行動と関係がある内容を集約したところ，1, 240 件のカードが抽出された。また，環境行動の内容を分類したところ，10 グループに集約された。なお，環境行動と関係がない行動は 56 件であり，これらは，分析対象から除外した。

小学生の環境行動としては，「ごみの削減」に関する行動が 255 件と最も多く，また，「節電」，「清掃活動」，「緑化」に関する行動も比較的多く見られた。今後は，学校別，地域別にみた環境行動と環境意識，学校環境教育との関係性について検証を加えていく予定である。

学校別	地域別	学校別	地域別
United:0 Sos:0	kathmandu: 0	United:2 Sos: 6	kathmandu: 3
Gandaki:- 0 Paschimanchal : 0 Amarsingh:- 0	Pokhara:0	Gandaki: 4 Paschimanchal :2 Amarsingh: 2	Pokhara: 2
Durgadatta :- 0 Janata:- 0	Lumbini:0	Durgadatta :4 Janata: 1	Lumbini: 4
United:-8 Sos: 6	kathmandu:7	United:6 Sos:4	kathmandu: 6
Gandaki:4 Paschimanchal : 7 Amarsingh: 5	Pokhara:5	Gandaki:8 Paschimanchal :7 Amarsingh: 10	Pokhara: 9
Durgadatta : 6 Janata:9	Lumbini: 6	Durgadatta : 4 Janata:-7	Lumbini: 6

関心：有　関心：無

理解：無　理解：有

図 1　「関心」と「理解」に関する回答のクロス集計結果

引用文献

許容瑜・伊藤雅一・岡村聖（2019）台湾における児童・生徒の環境意識～苗栗県におけるケーススタディ，環境教育，73, pp. 2-11